未年に想う

林　明任

あまあ楽に胸の中を通って日を過す事ができた。

お蔭で作品もたくさんできたし、思いつめた気持で溶く色の具合は強い美しい色あいになった様だし、神父様のアドバイスは神父様だったからこそ利いたので

日本に羊がはじめて渡来したのは、推古天皇の頃、百済から献上されたのがはじまりといわれている。

その後、明治元年時の内務卿大久保利通が、海外視察中に牧羊の重要性を痛感し、アメリカから専門家を招いて下総に牧場をひらいたのが、日本における羊飼育の最初となっている。

しかし、せっかくのこの計画も失敗に終った。

もともと羊は、雨の少ない乾燥した風土に適しているが、日本は多雨多湿、それによい牧草もまだなく、飼育の技術もお粗末であったため病気でたおれてしまった。

やっと明治四十一年になって北海道の月寒種畜場で試験飼育に成功し、農村の有畜農業の一環として全国的に奨励されはじめた。

その後、大正七年農商務省農務局にめん羊課ができ、全国五カ所に種羊場が設置された。その一つとして当試験場の現在地に熊本種羊場が開設され、九州地区のめん羊の改良増殖がすすめられた。

本県でも菊池鹿本の養蚕地帯を中心にしょう。子供の事を案じたり、案じる事がすめばケロリと忘れて、何時そんな事があったかという顔をしたり、仕事に夢中になったり、この日頃の様にこの一日が一杯につまっていると、どうも私は一年がとても長い様に思われる。

盛んに飼養されたのもその頃からである。

戦時中の羊毛の供出も想い出の一つとなったが、戦後衣料原料の豊富な出廻りとめん羊の収益性の低さもてつだって毎年飼養頭数は減少していった。

最近草地造成が進むにつれ草地と結びついた肉めん羊の飼育が再認識されるようになったが、観光を兼ねためん羊牧場を阿蘇地域に設置したいものである。

羊毛は衣料原料として我々の日常生活に欠くことのできないものであるが、羊肉は羊頭狗肉と諺にもある通り、肉の中で最高のものとして中国西欧でも珍重さ

今年も又一年、嫌なことがあまりなくて楽しい気持で写生に出たり、仕事をしたりしたい。あまり仕事に夢中になって主人の世話もできない時は、「私は働きヒステリィなのよ。」と謝っておいて。

（染色家）

初雪

橋田さかえ

くまもとは今日、初雪でした。

道も、家も、石も、みんな、まっ白にうつくしく、なりました。北岡の自然公園に行きました。だれも、きてなくて、ほんとに、しずかで、歩くと、雪をふむ、音だけが、きゅっきゅっと、いい音を、してくれます。広くて、少し、道を、まよいそうになりました。やっと、もときたところに出に時は、ホッといたしました。雪が降ったら、北岡の自然公園に行く。行こう。と、かねてから、私の、ねがいでした。雪の中に、小さな赤い、まるいものが、ころがって、いました。いくつも、いくつも。何だろうと、おもいました。椿のつぼみでした。つぼみのまゝ、小さな、赤い、まるいものが、雪のうえに、ころがっている——。こころに、のこりました。

（「阿蘇」所属）

知事選挙に

寺本広作氏当選

寺本知事の任期満了に伴う熊本県の知事選挙は一月十五日行なわれ、寺本広作氏（現）が当選、十八日に熊本県選挙管理委員会から当選証書が交付された。

寺本知事は宇土中、五高、東大を卒業、労働事務次官、参議院議員を経て昭和三十四年熊本県知事に初当選、こんどが三期目である。

れている。羊肉はおいしいばかりでなく、肉につきものの寄生虫や虫卵の心配がなく、その上肉のせんいが細く柔いので熱のとおりが早く消化のよい点でも定評となっている。

わが国の羊肉の歴史は外国に比べて遙かに新しく、牛肉や豚肉よりまだ一般の方には親しみが薄いようだが、近頃はジンギスカン料理を召し上ってすっかり羊肉党になられた方も多くなった。

羊肉料理の代表ともいうべきジンギスカン鍋焼は一種の野戦料理で、調理道具をもって戦場におもむくわけにもいかないから、カブトを代用して調理したのがことのおこりで鍋がカブト型をしているのもそれにちなんだものであろう。

その昔、モンゴール帝国をきづいた成吉思汗が征途につくときは羊の大軍をしたがえていた。そのころの騎兵軍団にとってはこれほど重宝な携行食糧はなかった。自分の足でついてきてくれるのだから、荷車などのやっかいなものを引かなくてもよいから、存分に機動力を発揮して世界を征服することが出来たといわれている。

羊は昔から幸運をもたらすものといわれているので今年はお互にどんないいことが飛込むか楽しみにがんばりたいものである。

（熊本県畜産試験場長）

昭和四十年三月、熊本県では、豊かな郷土を建設するための指標として、県計画―豊な県民生活への道―を策定しました。「広報くまもと」では、この県計画に基ずいて、昭和四十年度から県計画シリーズとしてその問題点と開発の方向を現況紹介と分析の上に立って展開してきました。参考までに、本号までのバックナンバーの内容を要約してみますと次のとおりになります。

♣四十年五月・一七九号八県計画・総論∨
1、県計画の基本的な考え方　2、新産地域、振興地域、開発地域の地域別にみた開発方向
3、経済面や産業就業人口などからみた熊本県の将来　4、計画達成のための資金
★第一線の人びと＝蚕業指導員

♣四十年七月・一八一号八農林漁業の近代化∨
ほかに★第一線の人びと＝畜産技術指導職員

♣四十年九月・一八三号八生活環境の整備∨
都市、住宅、保健衛生の各計画について、その主要施策の方向を現況と問題点とともに
★本県における健康開発（熊大教授野村茂）
★第一線の人びと保母さん（県立肥後学園にて）

♣四十年十一月・一八五号八商工観光の振興∨
工業、鉱業、商業、中小企業、観光の各計画を重点的に紹介。ほかに
★当面の経済情勢について（前日銀熊本支店長木村芳雄）
★観光くまもと私見（日本道路公団福岡支社長佐田愿）
★第一線の人びと＝計量検定職員

♣四十一年一月・一八七号八人づくりの促進∨
教育、労働、社会文化の各計画について、その主要施策を紹介。
★第一の線人びと＝分校の先生（天草・大江小学校向迎田分校）

♣四十一年三月・一八九号八産業基盤の強化∨
地域開発の前提である産業基盤について、その整備の方向を、交通、港湾、通信、利水電力、防災の各計画について紹介。★第一線の人びと＝球磨南部土地改良事業所の職員

♣四十一年五月・一九一号八城南編∨
四十一年度は県計画の大きな課題である地域開発の問題を、その各地区にスポットを当て、これからの指標と問題点を確めることにした。
★四十一年度当初予算
★ここに人あり＝新しき農民像（芦北郡芦北町・山石貞喜さん一家）

♣四十一年七月・一九三号
★城北道路談義（日本道路公団熊本高速道路調査事務所長下荒磯澄）
★ここに人あり＝ある養蚕農家（玉名市津留・大村正勝さん）

♣四十一年九月・一九五号八天草編∨
天草五橋開通。ひらけゆく天草。天草五橋のすべて。天草の旅。天草の産業、観光。
★ここに人あり＝島に生きる（本渡市・後藤ひのさん）

♣四十一年十一月・一九七号八阿蘇編∨
阿蘇地区の産業と観光。ほかに
★特報＝両陛下肥後路の旅
★阿蘇見参（熊本商大教授丸山学）
★ここに人あり＝阿蘇山測候所の職員

□以上のバックナンバーの在庫がまだ少しあります。特に希望される方はナンバーと特集名をお知らせ下されば送付申し上げます。但し、一九五号（天草編）は在庫がありませんのでご諒解下さい。

編集室から